

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：32519

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24510352

研究課題名(和文) 米国フレンズ奉仕団の研究—対日活動と日系人支援活動を中心として—

研究課題名(英文) A Study on the American Friends Service Committee with a Special Interest in Its Works for Japan and Japanese Americans

研究代表者

戸田 徹子 (TODA, TETSUKO)

城西国際大学・国際人文学部・教授

研究者番号：50183877

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は米国フレンズ奉仕団の日本ならびに日系人を対象とした活動を解明しようとするものであった。このテーマについては基本的資料の存在が確認されていなかったことから、まず奉仕団本部資料室で所蔵調査を開始。関連資料の概要を把握し、必要な資料を収集した。特に日系人強制収容に関しては多数の資料が存在していたので、資料リストを作成した。また奉仕団が作成したオーラル資料を項目別に整理し、日本語でまとめた。これらの作業と並行して、主要な奉仕団職員の日米交流活動や日系人支援活動を日米交流関係の文献で紹介した。

研究成果の概要(英文)：The primary materials on the American Friends Service Committee's commitment to Japan and Japanese Americans were collected at the Archives of the Committee in Philadelphia. A list of documents of the Committee's service for interned Japanese Americans during the Pacific War was compiled to increase research convenience. The AFSC Oral History Collection: 400 Series titled "Japanese American Internment and Students Relocation-WII" was analyzed. This study also introduced the key Committee members, who were either involved in goodwill activities between Japan and the US during the interwar period or who devoted themselves to serve interned Japanese Americans during the Pacific War.

研究分野：アメリカ研究、アメリカ史、日米交流史

キーワード：米国フレンズ奉仕団 AFSC クエーカー NGO 日米関係 日米交流 国際情報交換 アメリカ合衆国

1. 研究開始当初の背景

フィラデルフィアに本部を置く米国フレンズ奉仕団 (the American Friends Service Committee、以下 AFSC) は第一次世界大戦中の 1917 年に、プロテスタント教派の一つであるフレンド (別名クエーカー、教会名はキリスト友会) によって創設され、後に宗教色抜きの国際 NGO に発展した。日本では、太平洋戦争下の米国で強制収容された日系人を援助し、戦後は占領日本へのララ物資の調達と配給に尽力した組織として知られている。

(1) これまで研究代表者は、フィラデルフィア・フレンドの日本伝道を事例とし、そのミッション組織の変遷を辿り、各組織の伝道観と活動内容の違いを解明することで、米国プロテスタント日本伝道の関心の推移を明らかにしてきた。平成 19 - 21 年度の科研「1920 年代から 40 年代におけるフィラデルフィア年会ミッション・ボードと日米関係」では、戦間期のフィラデルフィア年会ミッション・ボードの資料を分析し、ボードが次第に国際親善と国際協力を重視する方針をとるようになったことを検証した。

(2) 前回の科研では集中的にフィラデルフィア年会ミッション・ボードの資料収集を行ったが、その中には同じくフィラデルフィアを拠点とする AFSC との協同活動を示す資料が多く含まれており、これらの資料を通して、AFSC がその結成直後から新渡戸稲造などの親米派の人脈を通して日本への関心を深め、戦間期には排日移民法修正活動を展開し、さらに日米親善に努めていた事実を知った。日米関係における AFSC の重要性をあらためて認識し、AFSC と日本との関係を解明するために、AFSC の基本資料を収集し、系統的な研究をするべきだと判断した。

(3) 日本は AFSC が最初に出会った非西洋の国であり、それだけに AFSC に与えた影響も大きかったといえる。しかしながら、AFSC の海外活動に関する先行研究の多くはヨーロッパを対象とし、アジアを取り上げた研究はほとんど無かった。この研究上の空白を埋める必要があると考えた。

2. 研究の目的

第一次世界大戦後、米国では海外伝道への関心が急速に失われていく一方で、世界平和や国際理解、国際援助への関心が高まり、世俗的な NGO がこれを担う動きが生じていたわけであるが、AFSC はそのパイオニア的存在であった。AFSC は国際環境の変化が著しかった戦間期、東アジアとくに日本への関心を深め、民間レベルで日米交流事業に着手し、太平洋戦争下の米国において、強制収容された日系人の支援活動を展開した。本研究の目

的は、AFSC の日本ならびに日系人に関連した活動内容を解明し、さらにプロテスタント教派に由来するこの国際 NGO の存在意義と課題を考察することである。具体的には以下の、2 つの課題に取り組むこととした。

(1) AFSC の戦間期の活動として、関東大震災時の災害援助、排日移民法案反対運動、日米交流事業、東アジア調査団の設置などがあげられる。これらに関する資料を AFSC の本部資料室で探し、活動の具体的内容を検証する。

(2) 太平洋戦争下の AFSC について、その組織的活動の全体像を把握する。AFSC は日系人強制立ち退き・強制収容に抗議し、日系人強制収容所内外で支援活動を展開した。これらの事実関係を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) まず戦間期の国際関係と日米関係に関する文献を渉猟し、民間セクターが国際交流事業や国際援助活動に果たした役割を AFSC において検証するという、本テーマの研究意義を確認した。

(2) AFSC については基本的資料の存在が確認されていなかったため、まずフィラデルフィアにおいて資料調査をした。

ハバフォード大学クエーカー・コレクションで、キリスト友会の定期刊行物から日本関連記事を収集するとともに、AFSC 関係者の人物照会をした。

AFSC 本部資料室には資料目録が完備されていなかった。かつ日本関係資料は特にまとまった形で保管されている訳ではなく、年度ごとに並べられた資料箱から日本関係資料を探し出す必要があった。そのため資料収集には多大な時間を要することが判明した。

さらに、AFSC 年報なども予想以上にヨーロッパ中心で、日本ならびにアジア関係の情報のごく少数であった。また本部資料室が西海岸の AFSC 支部の資料を所蔵していないことも判明した。

(3) AFSC 本部資料室において、主たる AFSC 職員を軸として、戦間期の AFSC の日本関連の活動について資料を収集した。内容的には報告書や書簡であった。

(4) 太平洋戦争下の日系人強制収容について、資料調査をした。これと並行して、同時期の AFSC の収容所関係のオーラル資料を分析した。

4. 研究成果

(1) 米国フレンズ奉仕団資料室所蔵の日本関係資料の概要を把握し、戦間期の日本関係

資料に目を通すことができた。特に太平洋戦争中の日系人強制収容と戦争直後の援助活動については多くの資料が存在していたため、資料目録を作成し、これを 1942 - 1946 と 1947 - 1950 の 2 期に分けて、勤務校の紀要に発表した。

戦間期には、新施設をめぐり本部と日本駐在の職員との間に対立が生じた。さらに日本駐在職員間でも活動方針について意見の相違が広がった。そして、これらが最終的にヒュー・ボートンの進退問題に発展していく過程を追うことができた。1930 年代に入ると、日中関係の悪化に伴い、AFSC 本部から情報提供を求められる機会が多くなっていた。

1942 - 1946 の資料は、書簡や報告書、ブックレット等で、アセンブリー・センター、リロケーション・センター、リセトルメント・ホステルに関する内容である。またミッション・ボード側のパスモア・エルキントン（新渡戸稲造の妻であるメアリ・エルキントンの甥）や AFSC 職員となっていたエスター・ローズ、フロイド・シュモールの書簡や報告書も含まれていた。

1947 - 1950 の資料も同様に書簡や報告書、ブックレット等で、日本政府や合衆国政府、他の救援団体との関係や、救援物資の品目や数量を示す内容である。エスター・ローズばかりでなく、皇太子（今上天皇）の家庭教師となったエリザベス・バイニングの記録なども含まれていた。さらにヨーロッパへの支援との比較や奉仕団内部での意見対立等が分かる書簡や報告書もあった。

(2) 二人の AFSC 職員を、民間セクターによる国際交流や国際援助の先駆者として位置づけ、日本とフィラデルフィアの交流史を取り上げた本 (*Phila-Nipponica*) に書いた。さらに、一般人対象の公開講座で紹介した。

ヒュー・ボートン (1903-1995) :

ボートンは 1928 年から 1930 年まで AFSC 職員として日本に滞在した。大学生寮の舎監をつとめ、国際平和活動や日米交流活動に従事した。帰国後は本格的に日本史を学び、コロンビア大学で教鞭をとり、戦前きわめて少数だった日本研究の専門家となった。太平洋戦争中は国務省に勤務し、対日占領政策立案に携わった。

エスター・ローズ (1896-1979) :

ローズはキリスト友会の宣教師であったが、米国に戻り、太平洋戦争期間中は AFSC 職員として日系人収容所で救援活動や学生転住活動を展開、戦争後は収容所を出されても戻る場所がなかった日系人のためにホステルを開業した。さらに敗戦後の日本でララ救援物資の注文と配給を担った。

(3) 「米国フレンズ奉仕団オーラル資料 400 シリーズの分析：第二次世界大戦下における日系人の強制収容と学生転住転学」として、AFSC オーラル資料 (AFSC Oral History

Collection 400 Series: Japanese American Internment and Student Relocation-WWII) を日本語でまとめた。この資料は、日系人 7 名と AFSC 関係者 4 名 (白人) のインタビューを、スクリプトに起こしたものである。内容を整理するに当たっては、日系人については 19 項目、AFSC 職員については 18 項目を設定し、これに沿って紹介した。

日系人 (7 名):
オオエ・ジョージ
ノダ・ラファイエット・ハチロー
ヤマシタ・ケイ
モリウチ・タカシ
ヒビノ・クメカワ・ノブ
フクシマ・トシユキ
コバヤシ・スミコ

設問項目

1. インタビューの日時、場所、担当者
2. 名前、性別、生年月日、出生地、居住地
3. 略歴
4. 学歴
5. 家族的背景
6. 宗教的背景
7. 言語
8. 人種的環境
9. 人種差別に関する経験
10. 大恐慌時の経験
11. 真珠湾攻撃、日米開戦時
12. 真珠湾攻撃から集合センターまで
13. 仮収容所から収容所まで
14. 収容所
15. 収容所からの転出
16. 受け入れ
17. AFSC との関わり
18. 今、アメリカに対してどう感じているか
19. その他、印象に残ることなど

AFSC 職員 (4 名):

フレデリック・W・スワン
ヘレン・プリル
バージニア・ヘック
トーマス・ボーディン

設問項目

1. インタビューの日時、場所、担当者
2. 名前、性別、生年月日、出生地、居住地
3. 特徴
4. 略歴
5. 家族的背景
6. 宗教的背景
7. AFSC の活動
8. 日米開戦
9. 日系人収容問題への関心
10. 立ち退き
11. 仮収容所と強制収容所
12. 転住・転学
13. 周りの反応
14. 戦後の賠償
15. クエーカーや AFSC への日系人の反応
16. 日本訪問

- 17. 関連事項
- 18. 特記事項

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

戸田徹子「米国フレンズ奉仕団 日本関係資料(1947 - 1950)」『城西国際大学紀要(国際人文学部)』26巻、2018年、査読有。

戸田徹子「米国フレンズ奉仕団 日本関係資料(1942 - 1946)」『城西国際大学紀要(国際人文学部)』25巻、35 - 50、2017年、査読有。

戸田徹子「フィラデルフィアにおける柴四朗」『山梨国際研究』9巻、60 - 69、2014年、査読有。

〔学会発表〕(計 2件)

Tetsuko Toda, “Quakerism from Philadelphia to Tokyo,” in the 46th Annual Mid-Atlantic Region Association for Asian Studies Conference on October 6-8, 2017 at Drexel University.

Tetsuko Toda, “Mary Morris and Her Relationship with Japanese People,” in the 42th Annual Conference of the Mid-Atlantic Region Association for Asian Studies on November 3, 2013 at University of Delaware.

〔図書〕(計 1件)

Linda Chance and Tetsuko Toda ed., *Phila-Nipponica: An Historic Guide to Philadelphia and Japan* (Japan American Society of Greater Philadelphia, 2015).

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔公開講座〕(計 2件)

戸田徹子「民間国際活動の転換期としての第一次世界大戦」千葉県茂原市公開講座、2016年10月22日、於茂原市役所。

戸田徹子「エスター・ローズにみる日米交流活動の歴史」千葉県香取市公開講座、2015年12月12日、於小見川市民センターいぶき館。

6. 研究組織

(1)研究代表者

戸田 徹子 (TODA TETSUKO)
城西国際大学・国際人文学部・教授
研究者番号：50183877

(2)研究分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

Donald Davis (Archivist, the Archives of the American Friends Service Committee, Philadelphia)